

岩手大学農学部植物生命科学科助教（テニュアトラック）募集要項
—卓越研究員事業—

本学科では文部科学省科学技術人材育成費補助事業「卓越研究員事業」（以下、「卓越研究員事業」という）に基づき、助教1名を本学のテニュアトラック制度により広く公募します。

任期は5年間で採用3年目に中間審査、5年目にテニュア付与審査を行い、優れた業績を上げた場合には任期なしの雇用形態に移行します。

選考は本学の定める手続きにより行い、結果は応募者本人にお知らせします。

1. 職種・人員：助教1名

2. 所属・担当学部

農学部植物生命科学科に所属します。大学院は農学研究科に所属します。

なお、平成29年度に大学院の改組が予定されており、改組後は総合科学研究科農学専攻植物生命科学コース（仮称）に所属の予定です。

3. 担当教育研究専門分野：植物生命科学科に含まれる分野

担当科目

学 部：植物生命科学科で開講している科目（分担）、植物生命科学演習Ⅰ（分担）、植物生命科学演習Ⅱ（分担）

大学院：総合科学研究科農学専攻植物生命科学コース（仮称）で開講する科目（分担）

その他：全学共通教育科目・学部専門基礎科目の一部

4. 応募資格

(1) 卓越研究員事業で卓越研究員に認定された方

(2) 博士の学位を有する方

(3) 当該専門分野において助教にふさわしい研究業績を有し、今後当該分野において新規性・独創性を持つ研究を展開できること。なお、経済的に有用な永年生・木本性作物を対象に圃場レベルから分子レベルまでの研究を展開できることが望ましい

(4) 学部生及び大学院生に対する教育研究指導を熱心に行えること

(5) 学部及び学科の運営に積極的に参加できること

5. 任用予定日：平成28年10月1日以降のできるだけ早い時期

6. 卓越研究員の給与について

給与は年俸制で、本人の経歴、研究業績等を勘案の上、岩手大学の規定により決定します。

7. 待遇

文部科学省卓越研究員事業の支援条件が整えば、研究費（2年間）が支給されます。

8. 提出書類

(1) 卓越研究員制度に申請した際の書類一式

・平成28年度卓越研究員事業 研究者情報（様式3）

・平成28年度卓越研究員事業 研究者申請書（様式4）

・希望研究機関登録（様式5）

・卓越研究員事業申請者に関する評価書（様式6）

(2) 履歴書1通(写真貼付、署名、捺印のあるもの。市販の履歴書で可)

(3) 研究業績目録1部(別紙作成要領を参照)

(4) 主要論文別刷5編以内(コピー可)

9. 公募締切日:平成28年8月8日(月)(必着)

10. 応募書類提出先及び問い合わせ先

提出先:〒020-8550 盛岡市上田3-18-8

岩手大学農学部植物生命科学科

植物生命科学科助教選考委員長

小森貞男

(応募封筒には「植物生命科学科助教応募書類在中」と朱書きして、簡易書留で郵送あるいは持参してください。なお応募書類は返却致しません。)

問い合わせ先:電話:019-621-6119、e-mail: komoris@iwate-u.ac.jp

11. 選考過程

卓越研究員事業に定めた方針に従って選考を行います。卓越研究員候補者に選ばれた方について書類選考の後、必要に応じて面接等を実施して最終選考を行います(この場合の交通費等経費は自己負担となります)。

12. その他

(1) 植物生命科学科のホームページURLは下記の通りです。

<http://news7al.atm.iwate-u.ac.jp/department2/agri/index.html>

(2) 岩手大学は男女共同参画を推進しています。業績及び資格等に関わる評価が同等と認められる場合には、女性を優先的に採用します。両住まい手当制度や子育て・介護中の研究者に対する支援策等については岩手大学ホームページ

(www.iwate-u.ac.jp/gender/) をご覧ください。

「研究業績」の作成について（2007. 4）

農学部教員人事委員会

研究業績は、A4判の用紙に A. 著書・訳書、B. 学位論文、C. 総説・論説、D. 原著論文 (a) 学術雑誌*¹、(b) 紀要*²、(c) プロシーディングス、E. その他*³、F. 報告書・事業報告書等*⁴、G. 特許・設計等、H. 国際学会発表*⁵、I. 国内学会発表*⁵の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り上げてください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度（日本文の場合フォントのサイズは10.5～12程度）にしてください。

- *1：学会誌、国際誌等を年代順に記載する。
- *2：試験場報告、研究所報告等を含む。
- *3：商業雑誌、資料等に記載する。
- *4：調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等に記載する。
- *5：最近5ヵ年について記載する。（教授選考の場合、I. 国内学会発表は不要）
- *6：著者名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。
- *7：英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。
 1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
- *8：学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。
- *9：論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド（太字）とする。
- *10：Journal は略記する。
- *11：発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

〈記載例〉

研 究 業 績 (著書・学術論文等)

A. 著書・訳書

1. 岩手一郎 (単著) (1990)
農学について. ○○出版社, 東京, 100p.
2. 岩手一郎 (分担執筆) (1991)
北上山地における畜産業, 「岩手の農業」(大学太郎, 学部一郎編), △△堂, 盛岡, pp. 10-20.
3. 岩手一郎 (分担翻訳) (1992)

トウモロコシ, 「アメリカの農業」(A. B. Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京, pp. 20-30.

4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆) (1993)
Agriculture in Japan, "Agricultural Sciences"(Eds.: D. E. F. Green and H. I. James), Bio Press, London, pp. 20-30.

B. 学位論文

1. 岩手一郎 (1980)
XYZに関する研究. [◇◇学修士または修士 (◇◇学) ○○大学]
2. 岩手一郎 (1983)
ABCに関する研究. [◇◇学博士または博士 (◇◇学) ○○大学]

C. 総説・論説

1. 岩手一郎 (1994)
岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No.3 : 1-5.
2. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1995)
岩手山の植物分布. 岩手植物誌 15 : 215-220.

D. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 岩手一郎 (1985)
岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 5 : 15-20.
2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J. Anim. Sci. 20 : 100-105.
3. Iwate, I. (1990)
Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. 25 : 15-20.

(b) 紀要

1. 岩手一郎 (1985)
トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 17 : 30-40.

(c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)
Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc. 5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp. 101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1990)

北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No.125 : pp. 35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシのPCB汚染. 自然動物調査報告 (△△県), pp. 10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

H. 国際学会発表 (最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)

Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表 (最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1997)

岩手の野生動物. 第100回日本野生動物学会講演要旨 : 25-26.